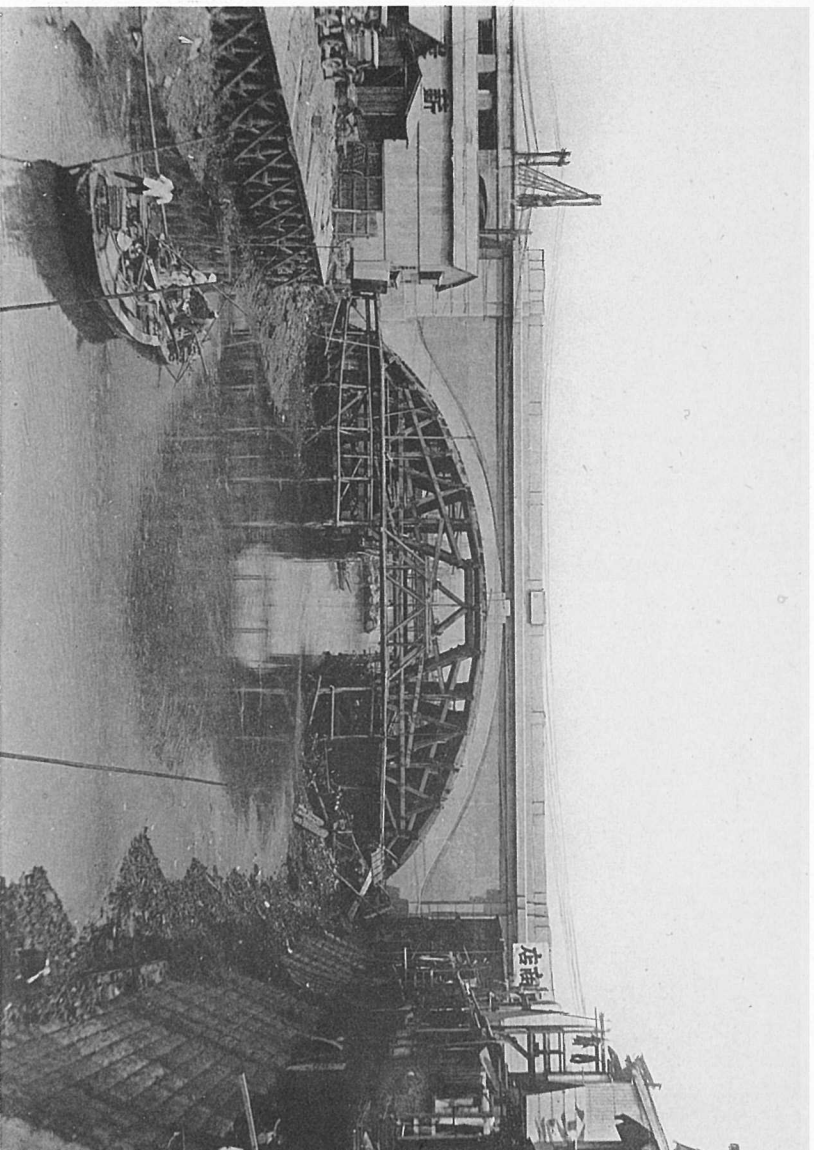
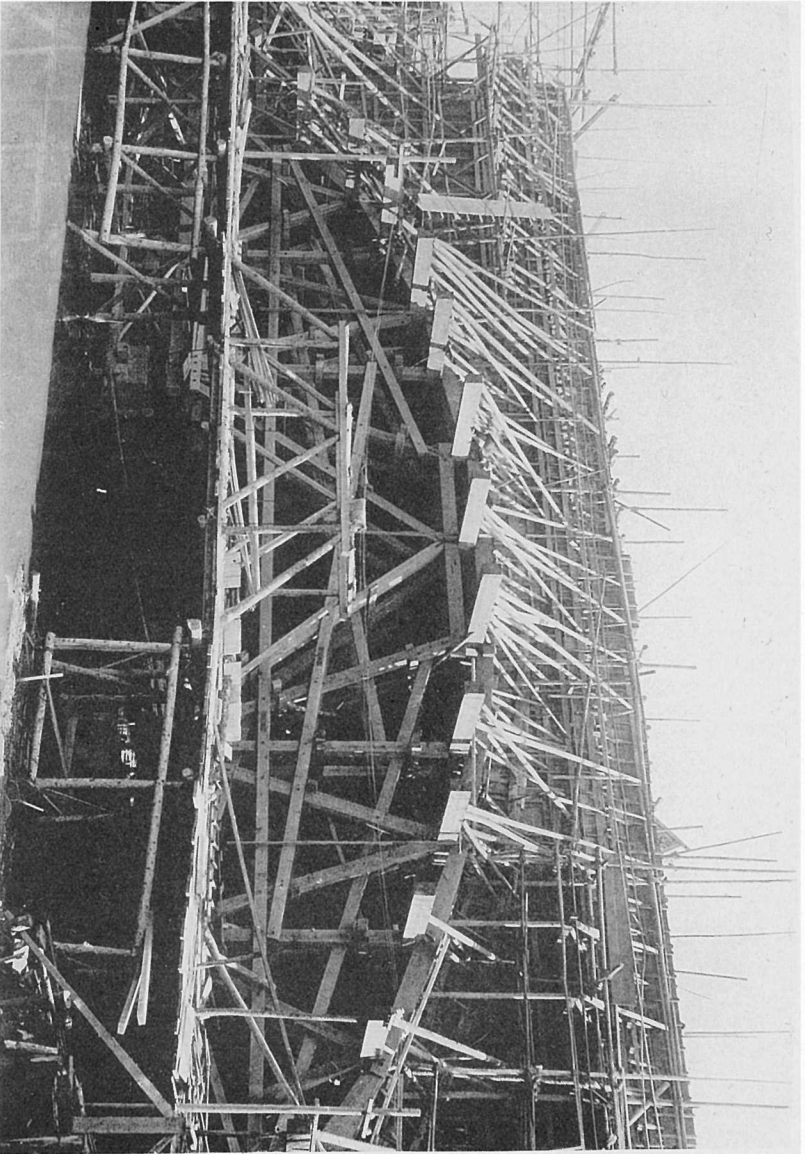


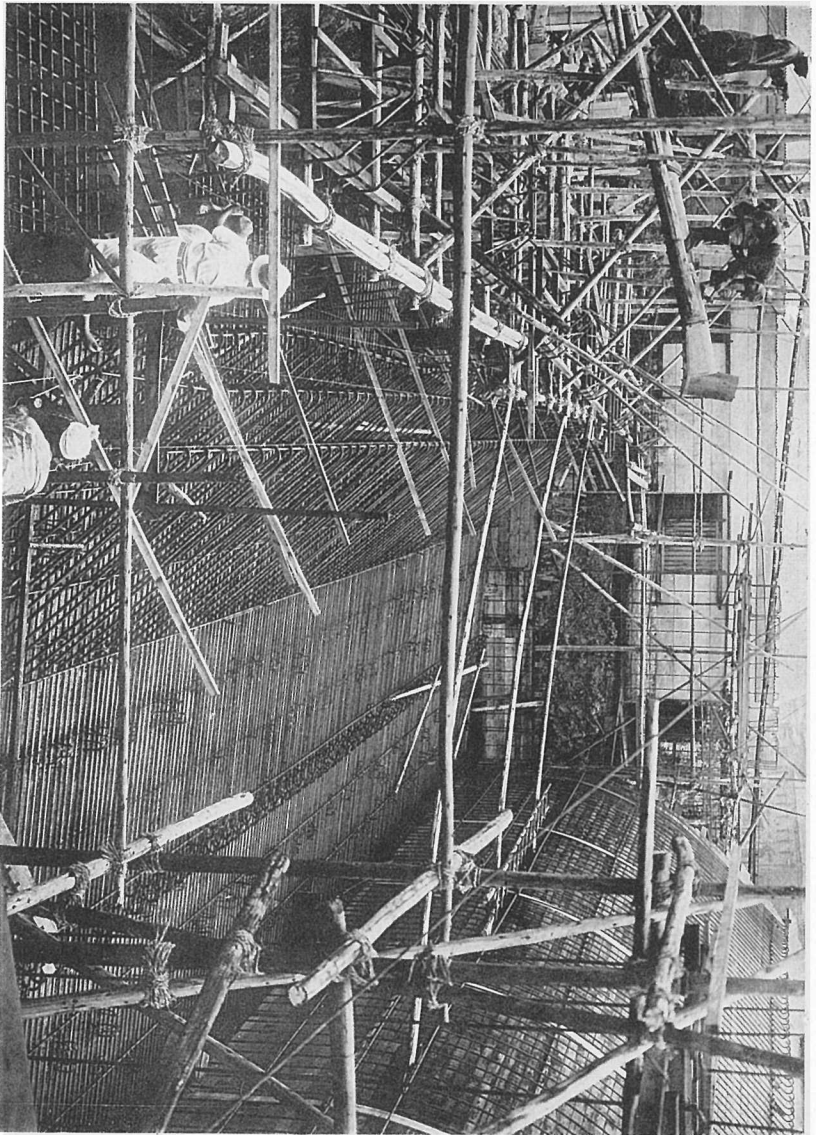
東京市街高架線東京七野間建設概要

神田川鐵筋混凝土拱橋出來上り側面



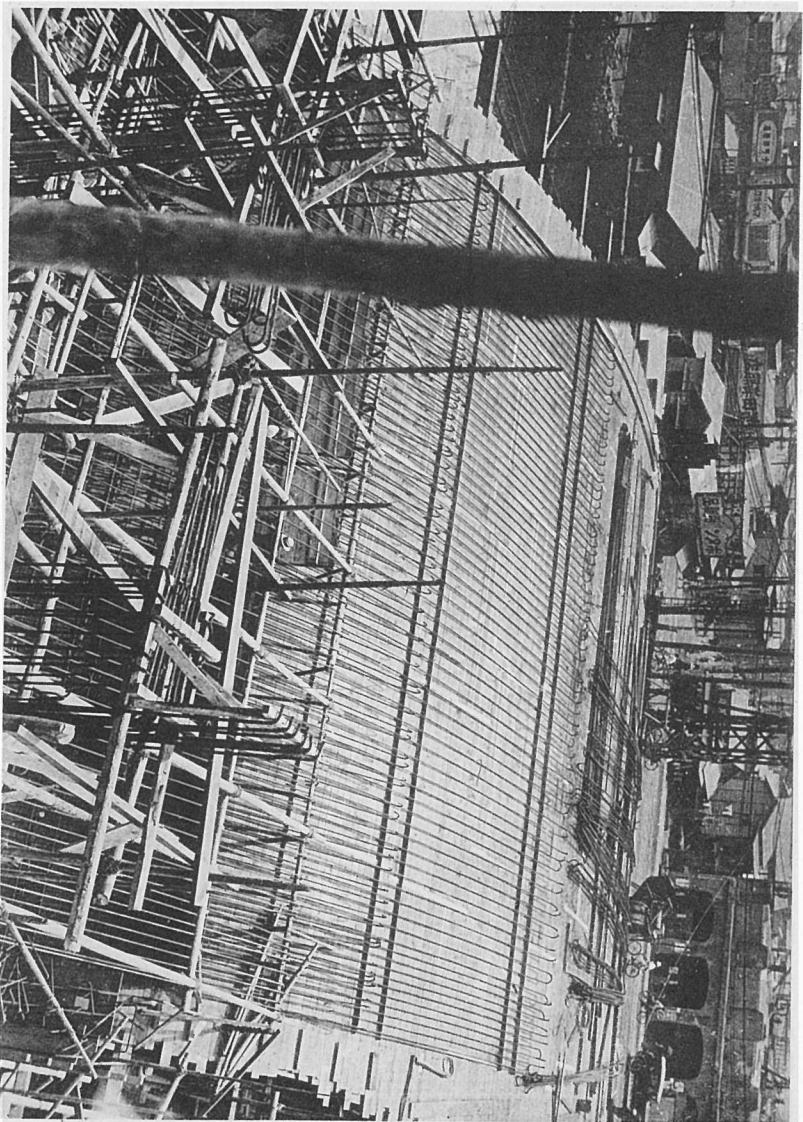
混泥土型枠組立を了りたる神田川橋



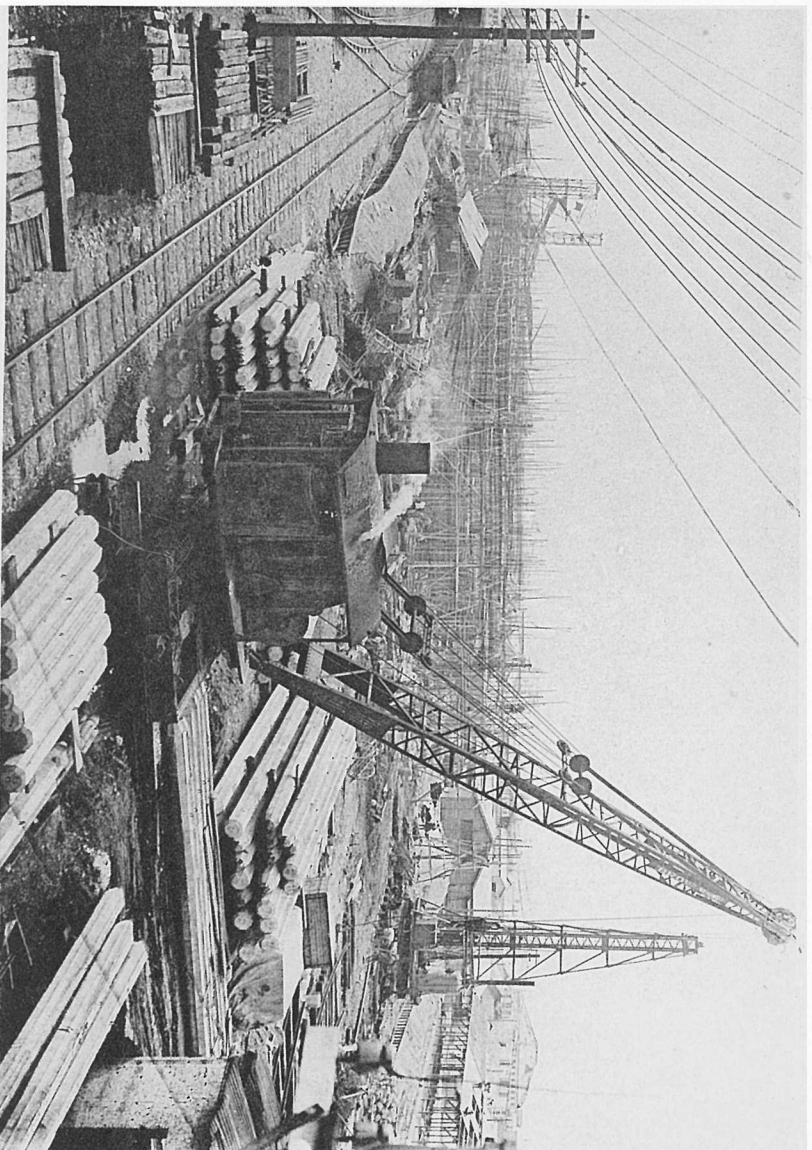


神田川橋配筋柳原河岸側橋臺

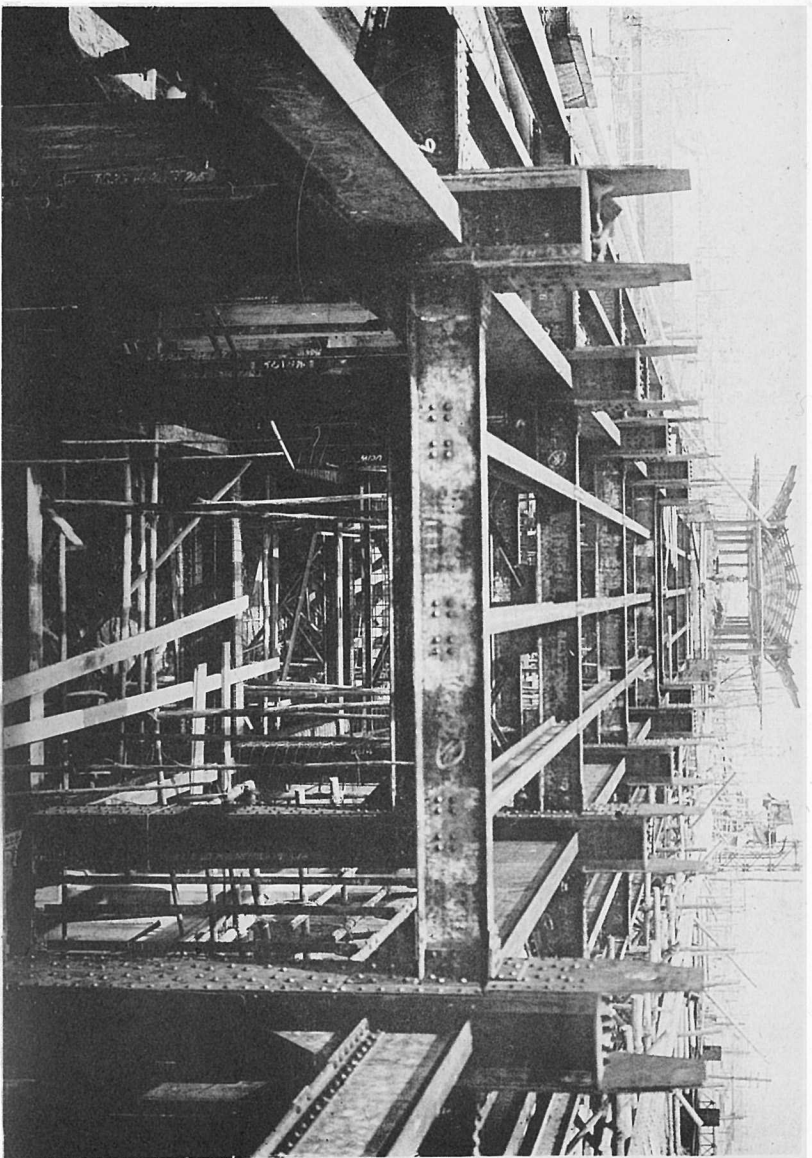
神田川橋配筋在久間河岸より見たる光景



工事中の佐久間河岸秋葉原驛遠望



工事中の秋葉原驛乗降場

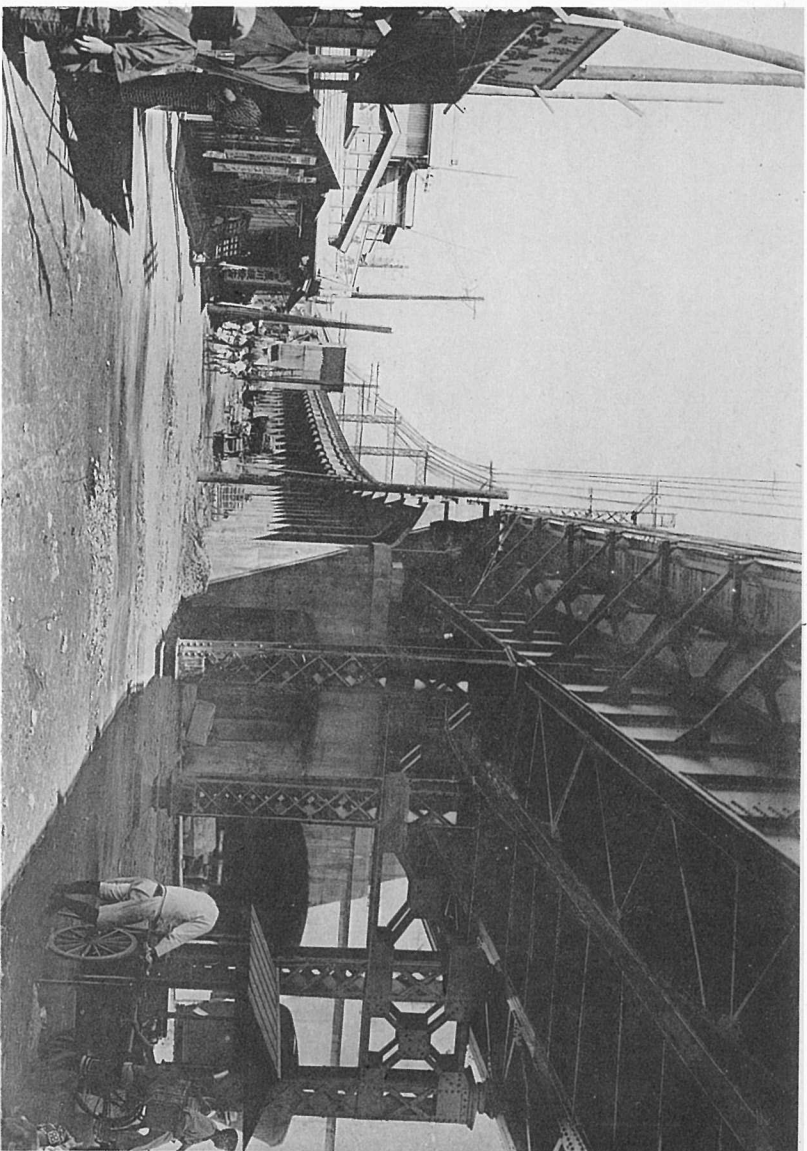


秋葉原驛本屋

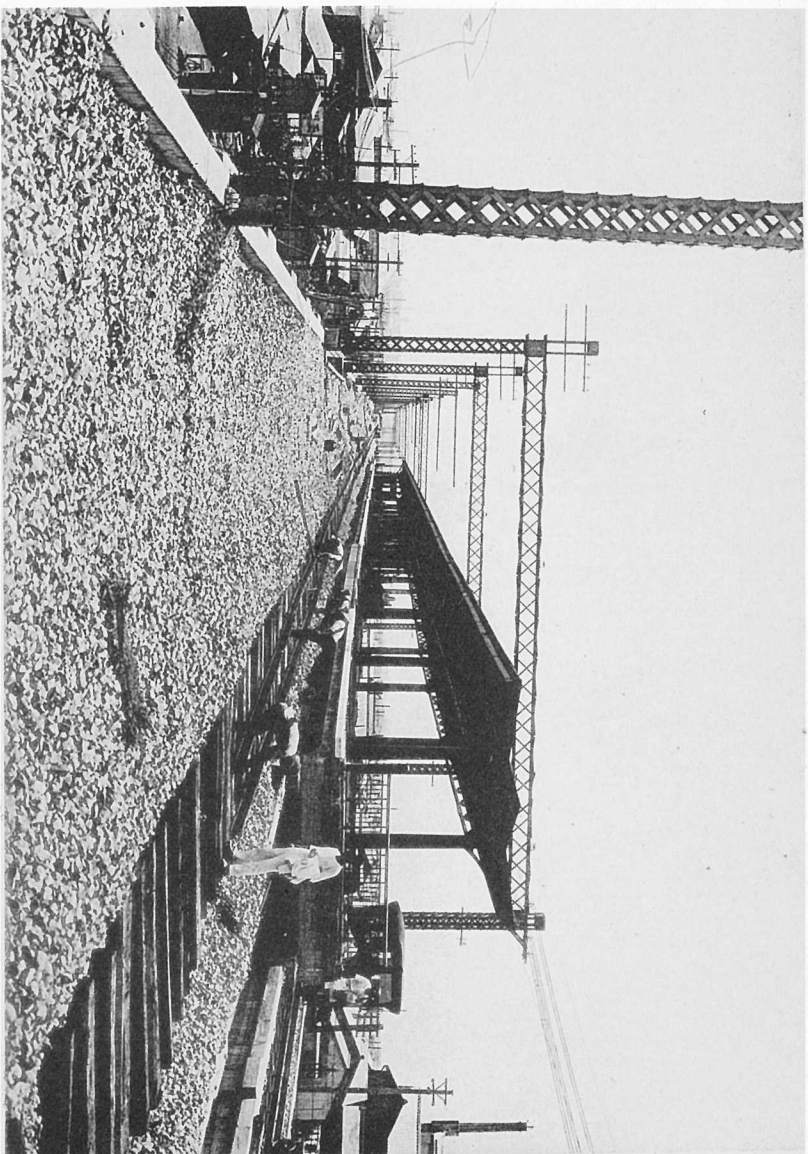




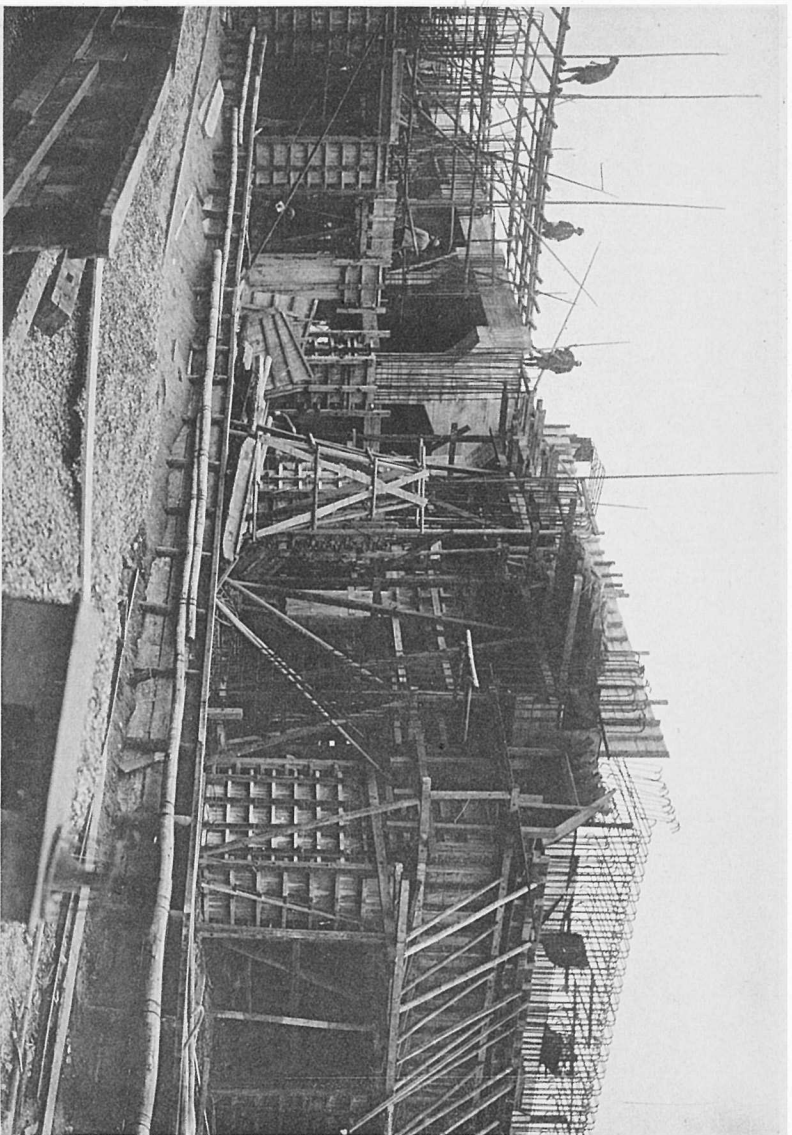
練辨橋より見たる第一御徒町橋側面



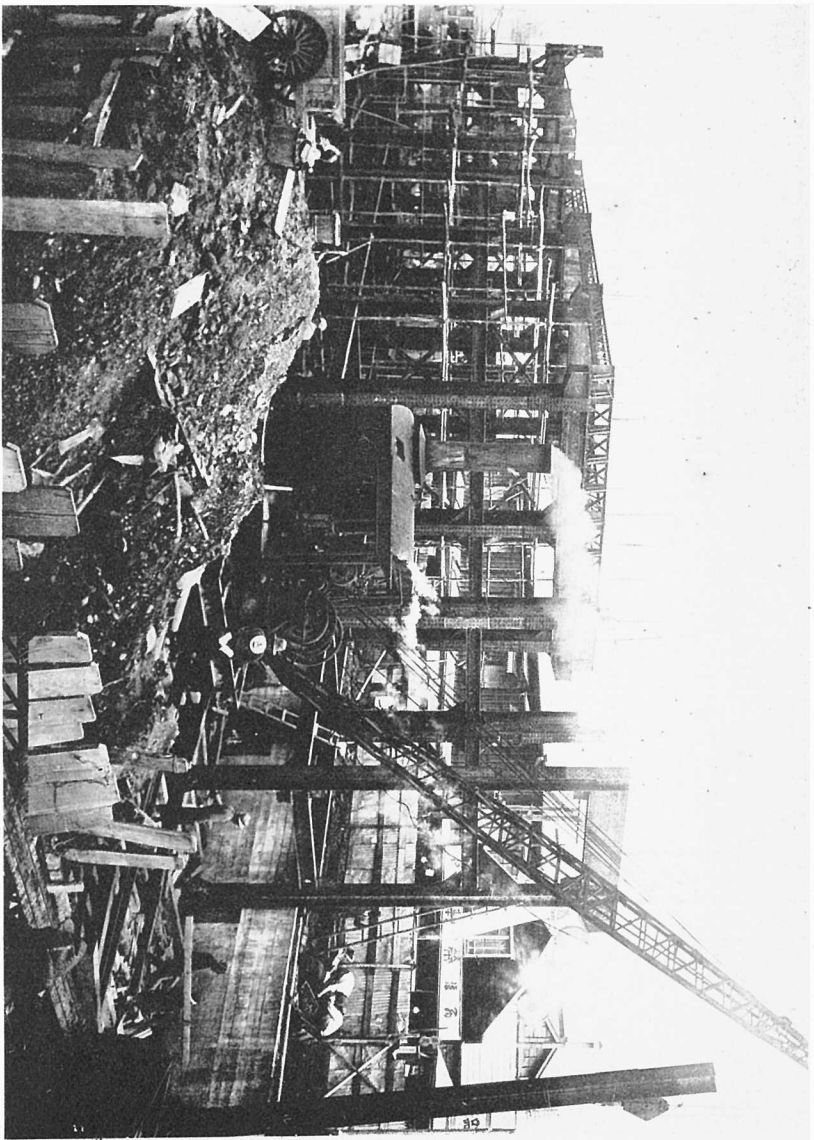
竣工したる御徒町驛乗降場



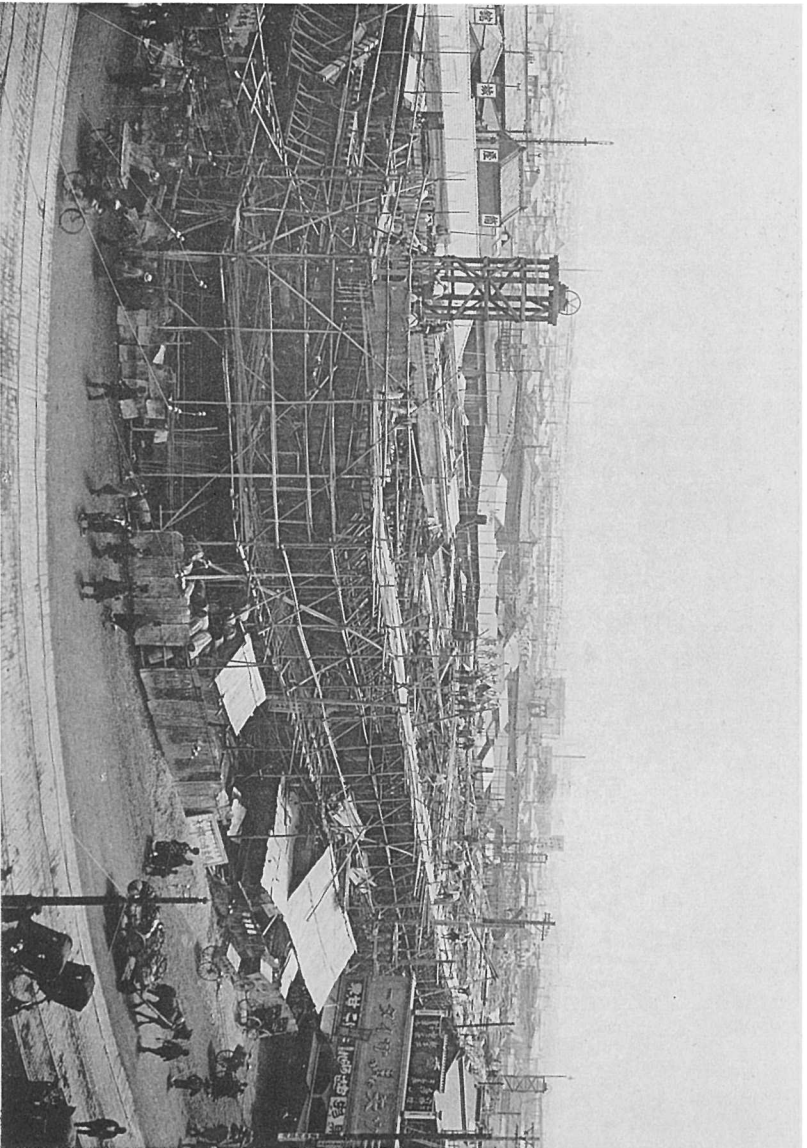
工事中の五條橋南橋臺



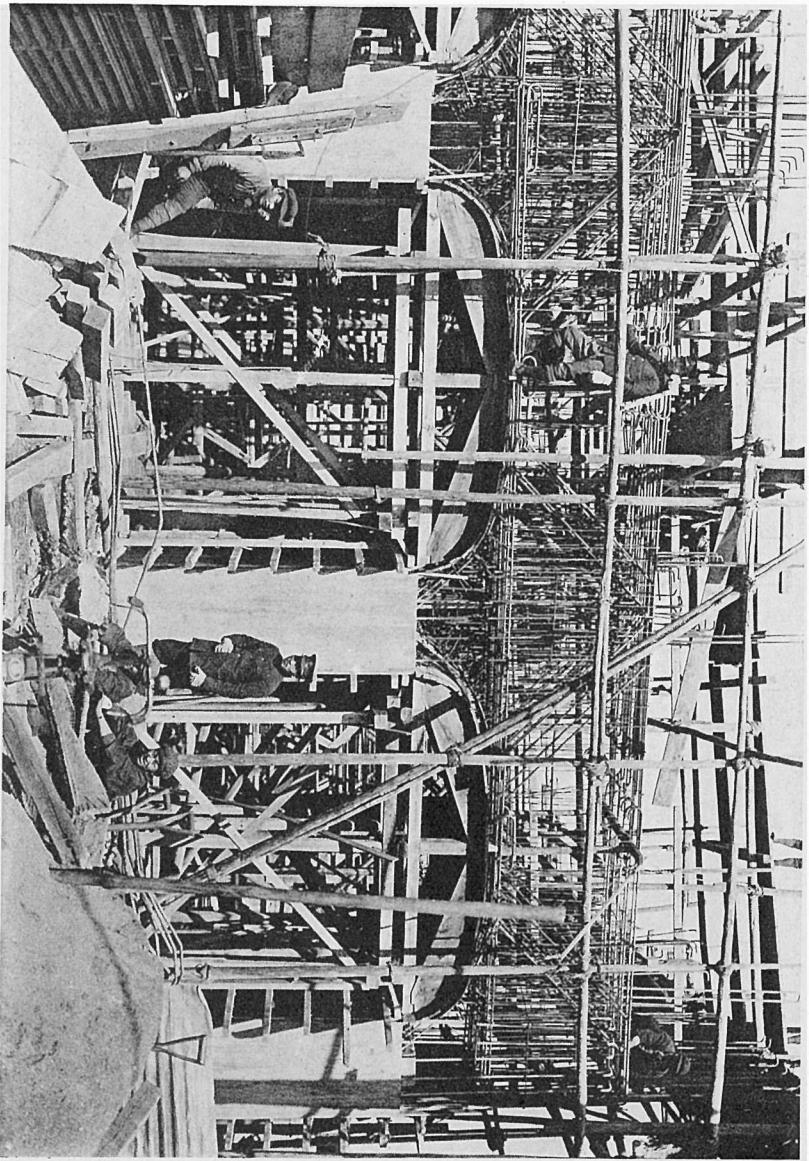
鐵骨組立中の五條町橋



混 凝 土 工 事 中 の 五 條 町 橋



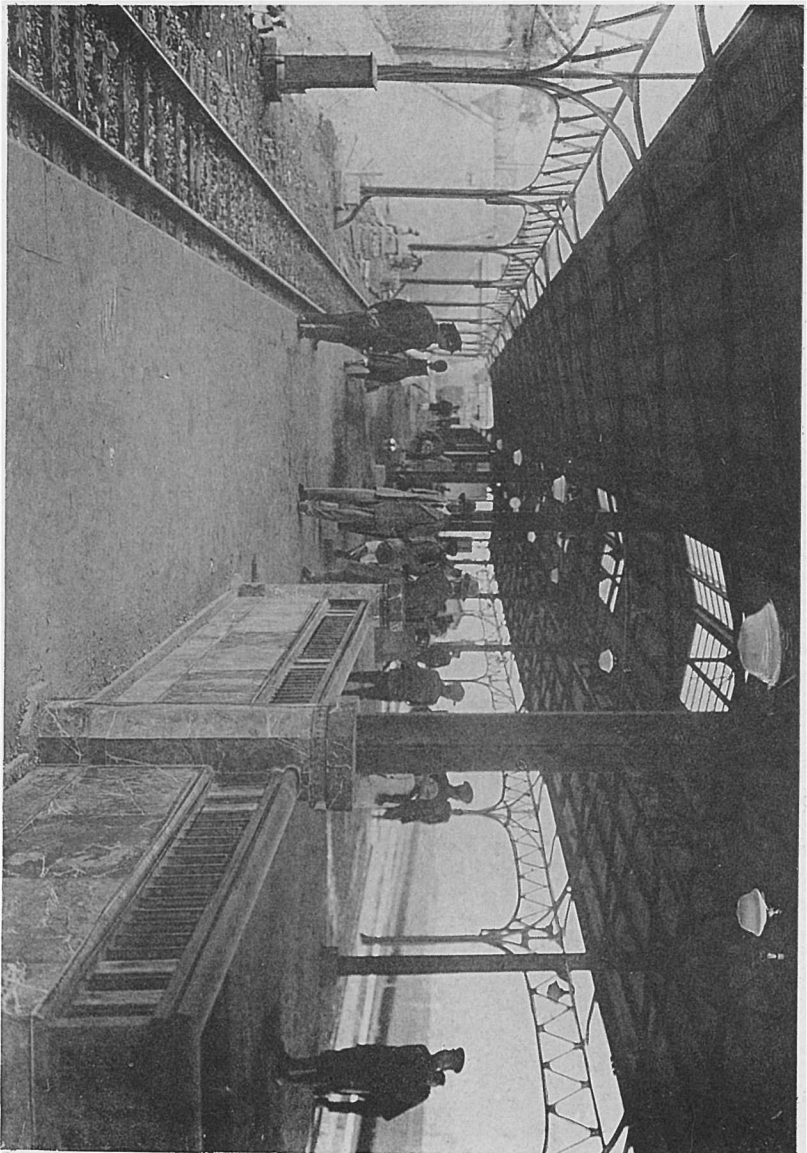
上野大通橋(上野驛側)橋臺工事中



工事中の上野驛構内高架線

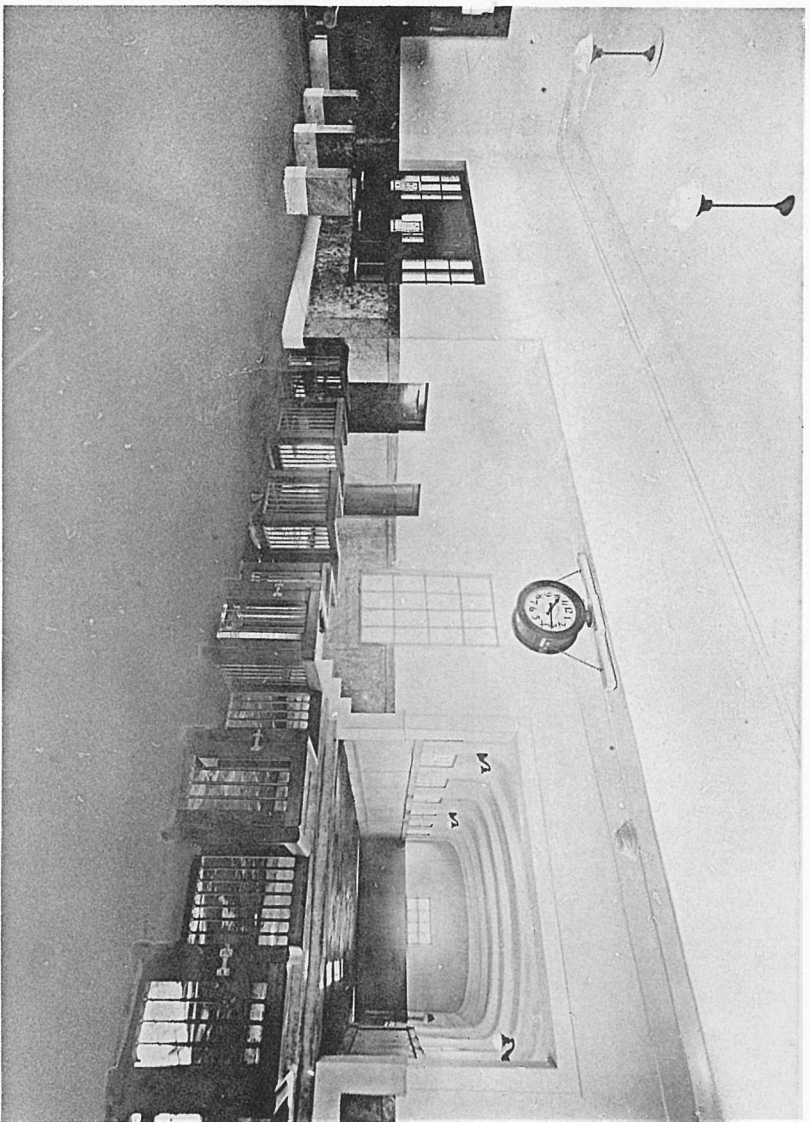


上野驛 乘降場

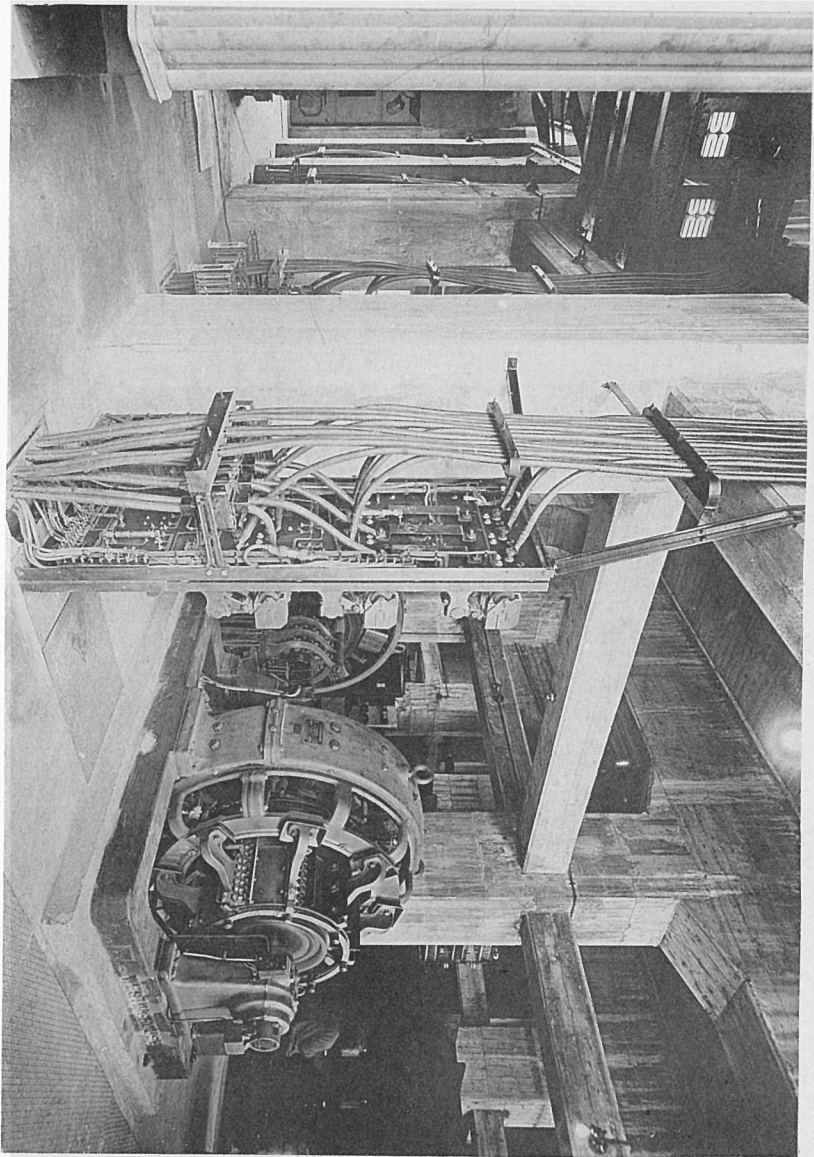




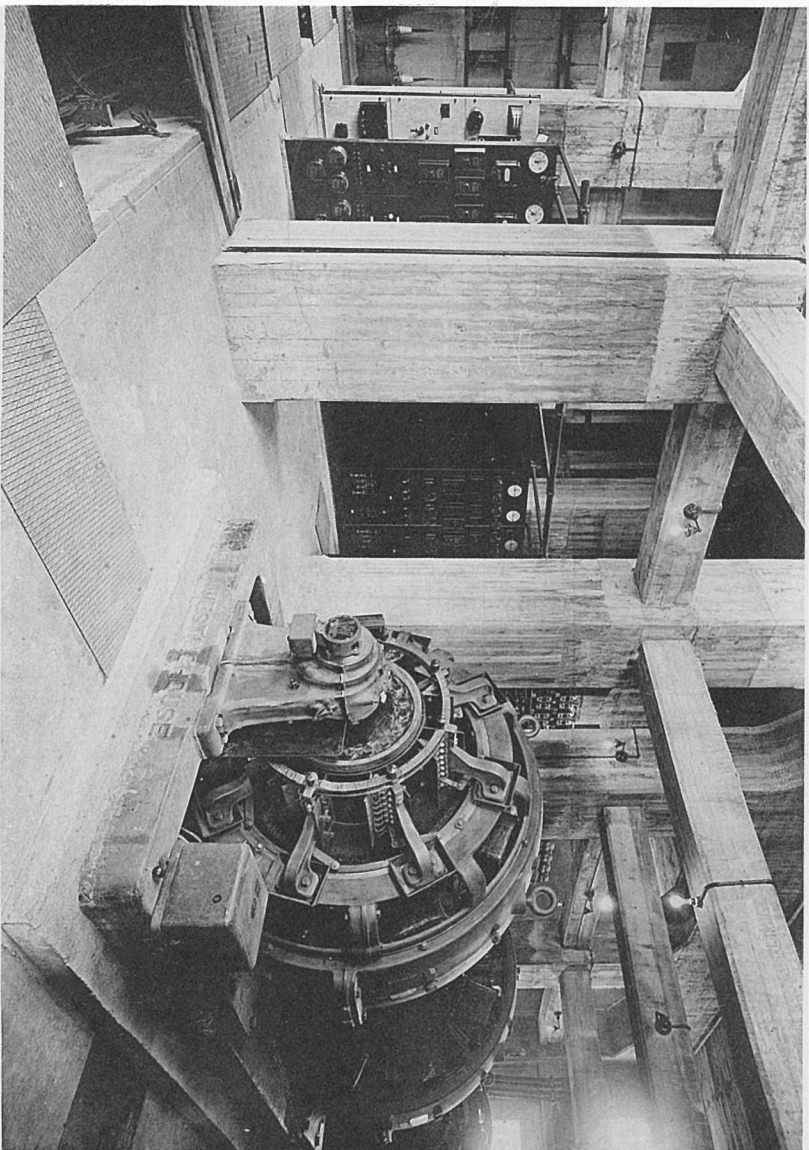
上野驛公園口改札所

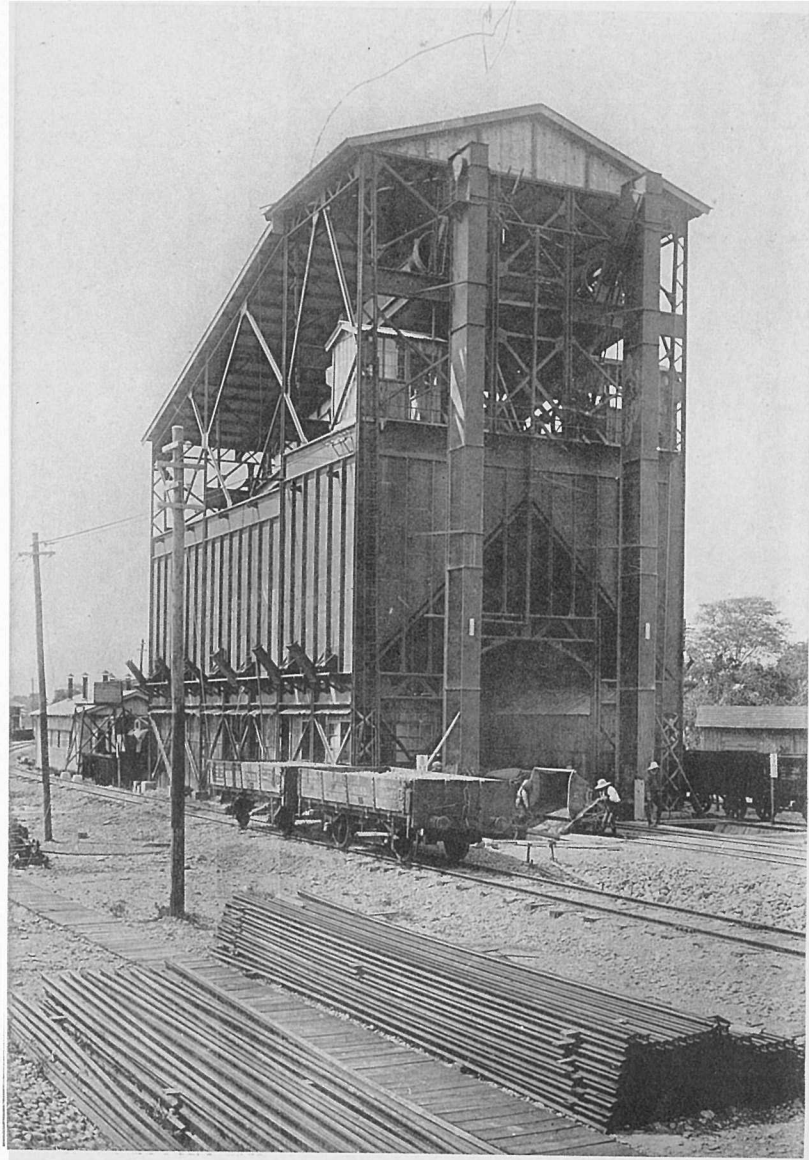


上野變電所內部 (一)



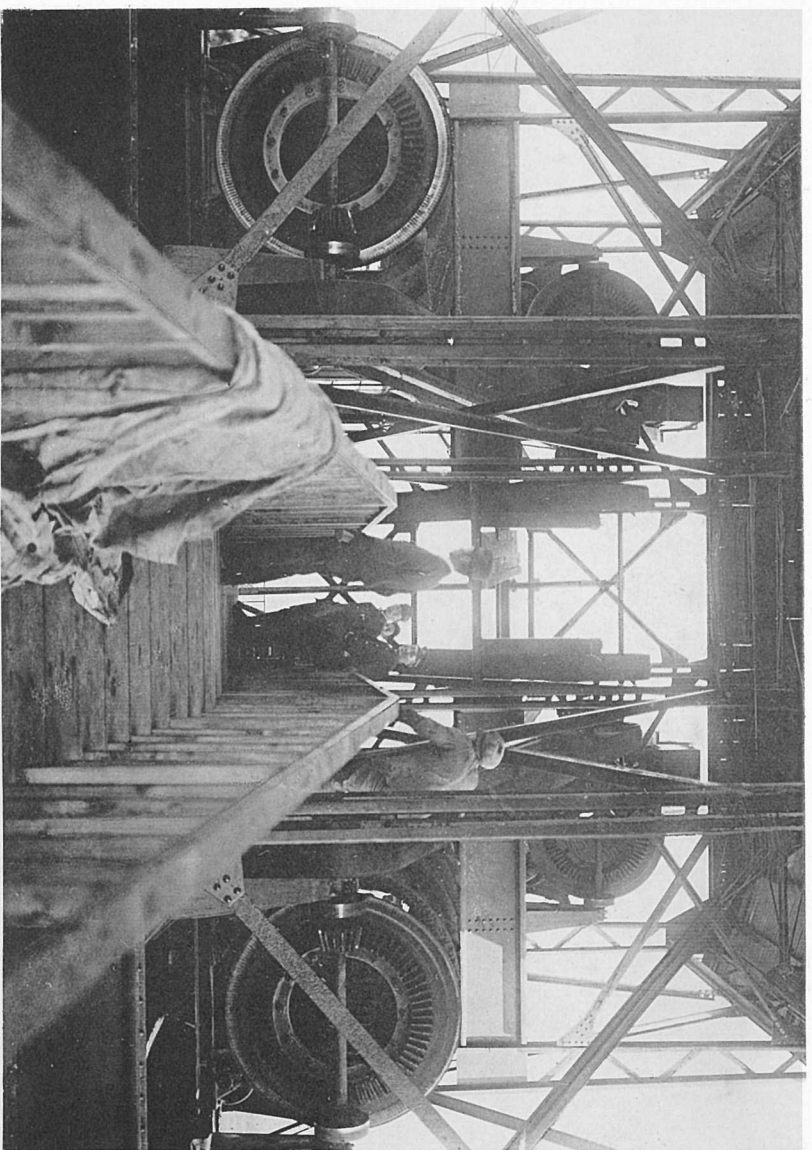
上野變電所內部 (三)





下河原砂利採集所に於ける砂利篩分洗滌所

砂利篩分洗滌所內部



# 東京市街高架線東京上野間建設概要

## 目次

第一	總說	一頁
第二	線路	四
第三	用地	六
第四	工事概況	七
第五	橋梁	一四
第六	軌道	二一
第七	停車場	二二
第八	電氣設備	二五
第九	主要材料	二八
第十	建設費概算	三三

# 東京市街高架線東京上野間建設概要

## 第一 總 說

本線路の計畫せらるゝや久し明治二十二年帝都の市區改正設計確立せらるゝと共に新橋上野兩停車場を高架線に依り市内を縦貫して連絡することに定められたり而して東京市中央に一大停車場(現在東京驛)を設置し其以南を官設とし其以北上野驛に至る間の線路を日本鐵道株式會社の經營に委す(若し同會社にして其負擔に堪ゆる能はざる場合は秋葉原以南を官設とし其の以北即ち秋葉原上野間を日本鐵道會社の經營に委す)べき旨内務大臣より訓令あり技師仙石貢(現鐵道大臣)之が調査に従事す後日本鐵道會社は雇獨逸人「ルム、シヨツテル」をして同様の調査を爲さしめ同二十六年八月本區間の敷設免許を出願し來りたるも機未だ熟せず孰れも著手の運に至らざりき

然るに世の進運に伴ひ貨客の集散往來は年と共に増加し益々本縦貫線の必要を感

せしかば當初計畫の通り先づ東京驛以南を政府の事業とし明治二十九年第九帝國議會の協賛を経て新永間建築事務所を設置し諸般の準備に着手し其の間事務所の改廢事業の中止等幾多の變遷を見拾有餘年の歲月を経て明治四十三年九月東京驛(當時吳服橋假停車場)迄電車運轉を開始し大正三年十二月東京驛の開業と共に東海道線列車は東京驛を起點とするに至れり

是より先鐵道國有法發布せられ明治三十九年末日本、甲武兩鐵道相踵て國有に歸するや從來計畫の高架線の外神田鍛冶町より分岐し舊甲武線萬世橋驛に至る線を追加し帝都鐵道網の大系茲に確立し四十一年東京驛以北神田柳原河岸及鍛冶町萬世橋間の實測に着手し四十三年より用地の買収を始め城西近郊の發展に鑑み先づ東京萬世橋驛間を連絡するを最も急務と認め工事を二期に分ち同區間及び上野方面の内之に關聯して同時に施行するを利益と認むる部分竝に基礎工事の如き同時施行の必要あるものを第一期とし其他の部分第二期と定め大正四年十一月工事に着手し同八年三月同區間の開通を見るに至れり次いで大正八年五月東京第一改良事務所の前身たる東京改良事務所を設置し(十一年五月東京第

一、第二の二改良事務所を設け在來の東京改良事務所管掌區域を二分す本區間は第一改良事務所の管掌となる)大正九年二月第二期と定めたる本區間の内東京、神田柳原河岸間の工事に着手し鐵桁架設及軌道工事の一部を除き同十二年二月竣功す其間神田川上野間の實測、用地の買収其他諸般の準備を整へ此の區間の工事を更に二期に分ち電車線二線分と之に關聯して工事施行を利益と認むる部分及同時に施行し得る部分を第一期とし殘餘の部分第二期工事として十二年一月一部の工事に着手し同年八月下旬第一期工事全部の請負契約を了り秋葉原驛一部の移轉上野車坂通りの擴張等準備工事も略終了し大正十三年度末開通の計畫を以つて翌月より一齊工事に着手せんとするや九月一日彼の前代未聞の大震災に遭遇し準備材料其他假設物等烏有に歸し工事進行上多大の齟齬を來したるも従事員一同の努力に依り僅かに六ヶ月遅延したるのみにて茲に開通を見たるも回顧すれば明治二十二年計畫以來實に三十有餘年の歲月を経本州内縦貫の實を擧ぐるを得たる次第なり本縦貫線は最初仙石貢氏技師として調査し大正三年東京驛開業の際は鐵道院總裁として祝典を擧げ今又大臣として全通を見る、奇縁と



謂ふべし

尙第二期計畫の部分竝復興計畫に基く二線増設も已に一部は工事中にして殘部も近く一齊起工の筈なれば東京上野間に遠行列車の走行を見るも近きにあるならん

## 第二線路

今回使用を開始したる線路は東京上野間二哩十七鎖五節にして各驛間哩程左の如し

東京間	六二、四六 <sup>鎖</sup>
神田間	三六、九九 <sup>鎖</sup>
秋葉原間	四七、五五 <sup>鎖</sup>
御徒町間	三〇、〇五 <sup>鎖</sup>
上野間	

線路中心線は東京驛構内より直線にて北方に出て外濠附近に於て一度四十一分

十四秒の交角を以て右折し神田柳町に於て十三度〇分の交角を以て左折し秋葉原驛に至り驛中心に於て兩國御茶の水線と交叉し更に〇度三十四分の交角を以て右折し再び八度三十七分二十秒の交角を以て右折し下谷仲御徒町に於て七度九分の交角を以て左折し在來貨物線に沿ふて進み上野町に於て十六度二十七分四十秒の交角を以て左折し貨物線と岐れ更に五條町に於て三十七度三十六分の交角を以て右折し上野驛構内に達す

勾配は大略現在地盤に準據し架道橋最下部をして吳服橋通、神田柳原通間は十四呎同佐久間河岸通より上野大通間は十五呎の頭空を保たしめたり其結果錢瓶町橋より百四十分の一勾配を以て上り本銀町にて三百五十分の一勾配に變じ千代田町に於て水平となり更に黒門町より三百三十分の一勾配を以て上り柳町に於て三百分の一勾配に變じ秋葉原驛構内に於て再び水平となり切通しより百五十分の一勾配を以て上り五條町に於て水平となり上野大通を越えて上野驛構内に入り三百三十分の一勾配に變じ續いて四十分の一勾配となり上野驛東端に於て在來線路高に合す

計畫線路數は復興計畫に基く二線を合し東京、佐久間、河岸間電車線、四線、汽車線二線の六線(中央線二線を除く)にして秋葉原、上野間は同上の外貨物線一線を加へ七線とす、右の内已に築造を了りたるもの東京、柳町間四線、路柳原通、上野大通間二線乃至五線路にして今回開通したるは以上の内二線とす

軌道中心間隔は東京驛、錢瓶町橋間は十一呎(三、三五米突)復々線間隔十三呎一吋二分の一(四、〇米突)錢瓶町橋、秋葉原驛間十三呎復々線間十四呎、秋葉原、上野間は十二呎復々線間隔十三呎にして線路中心より橋梁縁端(版桁を除く)迄の幅は左右八呎に築造せり故に東京、神田間に於ける現在橋梁幅員は普通の箇所(六線分)に於て八十三呎、神田、佐久間、河岸間(四線分)に於て五十六呎、秋葉原、上野間は(五線分)約七十一呎の幅員を有せり線路の兩側には幅二間(東京、柳原、河岸間)及幅三間(佐久間、河岸五條町間)の道路を設け附近居住者並に橋下利用者の通行に供したり

### 第三 用地

東京、上野間高架線建設に要する土地の内東京驛より柳原河岸に至る部分は東京

萬世橋間用地と共に明治四十三年中買収に著手し同四十五年之を了したるも神田川以北即ち佐久間河岸、上野間所要地は大正八年十月に至り神田、柳原河岸間に於ける一部増用地を併せ買収に著手し同十一年四月終了せり而して佐久間河岸、上野間に於ける買収土地面積一萬二千九百九十六坪五合六勺にして買収價格二百三十四萬六千六百圓地上物件移轉費二百六十五萬三千四百圓此の買収關係者千七百名(借家人を含む)の多數に上りたるも土地收用審査會の裁決を受けたるは僅に二十四名に過ぎず極めて良好なる結果を得たり

### 第四 工事概況

工事施行上並に整理上の便を圖り本區間を左の如く七工區に區分せり

第一工區 東京驛より日本橋區本銀町一丁目六番地に至る

第二工區 日本橋區本銀町一丁目通より神田區黑門町に至る

第三工區 神田區東松下町より同區柳原河岸に至る

第四工區 神田川より下谷區練堀町に至る

第五工區 下谷區練堀町通より同區仲御徒町三丁目に至る

第六工區 切通し電車通より上野驛前大通に至る

第七工區 上野停車場構内

本區間の地質は大手町、外濠附近は概ね良好にして基礎杭を使用せず神田驛方面に進むに従ひ地質軟弱となり龍閑河岸西今川町間に於ては十二呎及二十呎杭にて堅層に達せしが千代田橋より杭長を増し始め神田大通附近に於ては二十七呎乃至三十五呎杭を要し平永町附近に至りて稍々良好となり柳町に至つて再び不良となり三十五呎杭を要し上野に接近するに従ひ漸次良好となり上野町以北は五條町の一部を除き全く基礎杭を要せざるに至れり

本區間の杭打には専ら蒸汽錘を使用せり殊に黒門町橋以北上野間に於ては上下<sup>ダブル</sup>兩働蒸汽錘フレンチハンマーを使用したり機械は當省に於て購入し請負者に貸與使用せしめ或る時は錘ハンマー及導柱ガイドを取外して「クレーン」に代用して鐵筋混凝土杭の貨車卸をなし又或る時は鐵骨の組立に使用する等多大の便益を得たり

混凝土の混合には總て「コンクリートミキサ」を使用し同運搬には捲揚機、流送樋

及手押車(一名猫トロ)を使用せり然れ共流送したる混凝土は直接型枠内に投入するを避け必ず一旦箱舟に受け更に混合の上使用せしめたり

工事監督は技手一人雇員一人人工手若干名を以て一組とし一町橋乃至三町橋(橋の長短により差あり)を擔當せしめ工事掛詰所は東京柳原河岸間工事の盛なりし時代は神田小柳町に詰所を設置し神田川上野間工事時代は下谷區仲御徒町及上野驛構内に詰所を設け工事掛主任、物品掛等を置き所々に見張所を配置し擔當技手は各持場附近の見張所を根據として工を督せり

本工事中特筆すべきは混凝土杭製作場を田端客車操車場敷地内に設けたると多摩川に砂利採集場を設けたるとの二事なりとす

東京驛以北の基礎杭は全部鐵筋混凝土杭を使用し東京萬世橋及柳原河岸間工食用杭は使用現場又は其の附近に於て製作し數十日間硬化を待ち打ち込みたるを以て敷地は大部分杭製作の爲に使用せられ基礎工事は「打つて返し」の方法に依るの外なく勢二倍以上の日數を要せざるを得ず之に鑑み神田川上野間に使用する杭は豫め地質調査圖に依りて所要長及員數を定め田端客車操車場敷地内に約八

千坪の製作場を設け約一哩の假線を敷設し砂利、砂取卸棧橋を設け五噸吊自動蒸  
 汽起重機を使用し材料の搬入製作品の取片付杭の積出に便ならしめ現場地質に  
 應じて長短意の如き杭を使用し得る仕組となしたるを以て柳原河岸以南の如く  
 杭製作の爲め基礎工事を妨ぐる事なく一齊に工事を進行せしむる事を得たり  
 今各工區に付一々工事の模様を敘述するの繁を避け主要工事進行の状況を工區  
 別により列記すれば左の如し

工事種類	著手年月	竣功年月	直營又は請負	記 事
基礎工事	大正九年二月	同年十月	請負	當工區内基礎の一部は第一期工事と同時に施行せしは大手町橋の分とす 採集積込みを直營とし取卸し敷込を請負とせり
上部其他工事	大正九年三月	同十年八月	請負	
線路砂利敷工事	大正十年八月	同十一年六月	直營請負	
架道橋架設工事	大正十一年五月	同十二年三月	請負	
軌道工事	大正十二年二月	同十四年三月	直營	

第三工區	第二工區	第一工區
基礎工事 上部其他工事 高欄取付工事 架道橋架設工事 軌道工事	上部其他工事 架道橋架設工事 同 線路砂利敷工事 同 軌道工事 同 同	上部其他工事 架道橋架設工事 同 線路砂利敷工事 同 軌道工事 同 同
大正十年四月 大正十一年六月 大正十二年二月 大正十三年十二月 大正十四年五月	大正十年三月 大正十一年五月 大正十三年六月 大正十二年一月 大正十一年七月 大正十二年二月 大正十二年四月 大正十三年十二月	大正十年三月 大正十一年五月 大正十三年六月 大正十二年一月 大正十一年七月 大正十二年二月 大正十二年四月 大正十三年十二月
同十一年八月 同十二年二月 同十二年五月 同十四年四月 同十四年八月	同十一年十二月 同十二年三月 同十三年十二月 同十二年四月 同十一年十二月 同十二年三月 同十二年五月 同十四年八月	同十一年十二月 同十二年三月 同十三年十二月 同十二年四月 同十一年十二月 同十二年三月 同十二年五月 同十四年八月
請負 同 同 同 直營	請負 同 同 直營請負 直營	請負 同 同 直營請負 直營
砂利敷工事を含む	基礎は第一期工事と同時に施行せり 鐵桁製作の關係上二回に分ち施行す 採集積込を直營とし取卸敷込を請負とす	基礎は第一期工事と同時に施行せり 鐵桁製作の關係上二回に分ち施行す 採集積込を直營とし取卸敷込を請負とす

第 四 區 工 區					第 五 區 工 區							
基礎及上部其他工事	同 上	同 上	架道橋架設工事	秋葉原驛木屋新築工事	線路砂利敷工事	軌道工事	高欄取付工事	基礎及上部其他工事	同 上	線路砂利敷工事	架道橋架設工事	御徒町驛本屋新築工事
大正十二年一月	大正十二年九月	大正十二年九月	大正十四年三月	大正十四年五月	大正十四年五月	同	大正十四年七月	大正十二年一月	大正十二年九月	大正十四年二月	大正十四年三月	大正十四年五月
同十四年一月	同十四年六月	同十四年六月	同十四年六月	同十四年八月	同十四年八月	同	同十四年九月	同十四年五月	同十四年八月	同十四年七月	同十四年八月	同十四年八月
請負	同	同	同	同	同	直營	請負	請負	同	同	同	同
三口に分ち施行す			二口に分ち施行す			二口に分ち施行す			採集積込を直營とし取卸敷込を請負とす			

第 六 區 工 區					第 七 區 工 區					
基礎及上部其他工事	同 上	同 上	架道橋架設工事	線路砂利敷工事	軌道工事	高欄取付工事	假電車設備其他工事	土砂積込工事	假電車線布設工事	橋梁基礎及工事
大正十二年七月	大正十二年九月	大正十四年三月	大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年七月	大正十四年七月	大正十二年六月	大正十三年三月	大正十三年四月	大正十三年七月
同十四年八月	同十四年七月	同十四年九月	同十四年八月	同十四年八月	同十四年九月	同十四年九月	同十三年七月	同十三年六月	同十四年三月	同十四年九月
請負	同	同	同	直營	直營	請負	同	同	直營	請負
二口に分ち施行す		二口に分ち施行す		採集積込を直營とし取卸敷込を請負とす			同			

備 設	電 氣	電 氣	備 設	備 設	備 設
線東京送東電同新上	東京電東京電東京電東京電	東京電東京電東京電東京電	東京電東京電東京電東京電	東京電東京電東京電東京電	東京電東京電東京電東京電
新設其他工事	送電線路施設工事	東京電線路上野間電車架空	東京電線路上野間電車架空	東京電線路上野間電車架空	東京電線路上野間電車架空
大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年六月	大正十四年六月
同十四年十月	同十四年七月	同十四年七月	同十四年七月	同十四年七月	同十四年七月
直營	直營	直營	直營	直營	直營
					機械基礎を含む
					乗降場上家及跨線橋を含む 線路砂利敷を含む

### 第五 橋 梁

本線路は全部橋梁より成り其型式は多種に涉ると雖も陸橋は東京黒門町橋間に於ては主として拱橋を採用し地形上若くは地盤の関係上「スラブ」を採用せし所數箇所あり東松下橋山下町橋間に於ては橋下の利用率を大ならしめんが爲め専ら「スラブ」式を採用せり

但し五條町橋の一部は地下室付二階建鐵骨混凝土「スラブ」橋にして橋梁と云ふよ

りも寧ろ家屋型なるは例外とする處なり

第一、第二工区内即ち黒門町橋以南は煉瓦及石材を用ひて裝飾を施したるも其の爲め多額の費用と時日を要するを以て裝飾は必要に應じ他日施すこととし、工費を節約して線路の延長を謀るを急務と認め東松下橋以北に於ては一切化粧工事を省略せり

架道橋は全部版桁を架設し徑間は吳服橋柳原通橋間に於ては市區改正道路の幅員に倣ひ佐久間橋五條橋間は練塀橋を除き道路幅員全部六十三呎以下なるを以て設計の手續を省き且つ經濟上より支間六十六呎のものを一様に用ひたり練塀橋は當初六十三呎の設計なりしも後復興道路計畫幅に基き九十四呎九吋に改め中央に橋脚を設けたり上野大通橋は途中に橋脚を建て支間九十二呎九吋及び六十三呎二吋の二徑間とせり徑間九十呎以上の版桁は本邦に於ては其の例を見ざるべく途中線路の曲線に倣ひて屈折したるも亦異とすべし、型は「ハーフスルー」及「デツキ」型の二種を用ひ何れも軌條面下一呎六吋の處に「バックルドプレート」を張込み道床を入れ列車通過の際に起る音響輕減に努めたり

「スラブ」橋に於ては橋脚と「スラブ」との間には初め厚八分の一寸鉛板を敷込たるも鉛板は價も廉ならざるを以て後には同厚の「アスファルト」氈板を使用する事に改めたり

「スラブ」の伸縮接手には「アスファルト」若くは「アスファルト」氈板を填充し其上に銅板を以て雨水の侵入を防ぎたり

架道橋に於ては防腐の目的を以て其他に於ては防水の爲橋背には厚八分の三寸の「アスファルト」を塗布し其上に厚二寸の防水「モルタル」塗を施せり

河川に架したる橋梁としては僅かに三ヶ所に過ぎざるも徑間百二十五呎の外濠橋徑間百〇八呎の神田川橋あり何れも鐵筋混凝土橋としては稀に見る大橋梁にして殊に神田川橋は大河戸博士の新しき設計法に依るものなり

設計荷重は今回開通の二線に對しては吳服橋鍋橋間の架道橋及錢瓶町陸橋には八十八噸「コンソリデーション」機關車二臺聯結とし他は「クーパー」氏示方書 E 33 を採用せり

今東京上野間に架設せし橋梁を順序に列擧すれば左の如し

陸橋	延長	徑標	間準	型式	橋脚	基礎に使用	摘要
錢瓶町橋	六五七三三	二六三三	〇〇	煉瓦拱	震災の爲め記録焼失不明	杭なし	表面煉瓦及石材を以て裝飾す
大手町橋	四五一〇五	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	杭なし	及	
龍閑河岸橋	九二五五三	一〇〇〇〇	〇〇	斜拱	二十八呎		
第一本銀町橋	一七一六九	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	同		
第二本銀町橋	八五一五一	一八七五		連續拱	同		
西今川町橋	六〇八六			同上	同		
千代田町橋	三二八六九	三三二〇〇	〇〇	鐵筋拱	十八呎乃至三十呎		
新石町橋	一〇四〇四			連續拱	二十八呎乃至		
第一鍛冶町橋	三一七一〇	一五〇〇〇	〇〇	壁式	至二十五呎		
第二鍛冶町橋	二二六六九	一五〇〇〇	〇〇	同上	至三十五呎		
第三鍛冶町橋	七六三二			單柱式	至四十五呎		
黑門町橋	四六二一九	三三二〇〇	〇〇	連續拱	至三十五呎		

架道橋	總徑間	型式	橋柱	基礎	脚	總重量	摘	要
吳服橋	一一九 <small>呎</small> 三九	複「ハーフスルー」型	二列	有	有	八三 <small>噸</small> 九一		
常盤橋	五六七〇	複「ハーフスルー」型	同上	有	南側有 北側無	三六三八		
龍閑橋	一〇〇五八	單「ハーフスルー」型	同上	有		四四二六 <small>噸</small> 六七	下上	線線
木銀橋	四七二六	複「ハーフスルー」型	無	無		五七九二	下上	線線
西今川橋	四七二六	單「ハーフスルー」型	同上	有		二二八五 <small>噸</small> 〇〇		
千代田橋	四二八七	同上	同上	有		二二二二 <small>噸</small> 八八		
新石橋	七九三六	同上	二列	有		四四〇一 <small>噸</small> 五七		

山下町橋	四六〇三九	一五〇〇	同上	同上	同上	同上		
第一五條町橋	二〇六九五	一五〇〇	同上	同上	同上	九呎乃至 三呎六吋		特種設計
第二五條町橋	一七八六二	同上	同上	同上	同上	同上		
下谷町橋	四六〇八九	一五〇〇	同上	同上	同上	同上		

東松下橋	五〇八	同上	同上	同上	同上	同上		表面「モルタル」塗
平永町橋	三六八〇七	同上	同上	同上	同上	同上		
第一柳町橋	一二一七一	同上	同上	同上	同上	同上		
第二柳町橋	九六〇三一	同上	同上	同上	同上	同上		
柳原河岸橋	四六五五	同上	同上	同上	同上	同上		
佐久間河岸橋	一三三九二	同上	同上	同上	同上	同上		
第一秋葉橋	六五三一六	同上	同上	同上	同上	同上		兩國御茶水線乘越の爲 め橋柱一部鐵骨混凝土
第二秋葉橋	一一二九九	同上	同上	同上	同上	同上		
第一御徒町橋	七〇九三五	同上	同上	同上	同上	同上		
第二御徒町橋	六五六〇七	同上	同上	同上	同上	同上		
第三御徒町橋	二八〇六二	同上	同上	同上	同上	同上		
第一上野町橋	一三七九四	同上	同上	同上	同上	同上		
第二上野町橋	一三七二九	同上	同上	同上	同上	同上		



第六軌道

軌道中心間隔は線路の項に記載したる如く所により異なるれ共軌條は百封度長拾

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
外濠橋	一二五〇	「メラン式」混凝土鐵筋拱	無		表面花崗石張裝飾を施す
白旗橋	五一二二	「ス」線版桁型	無		上り、下り、各線重量二噸〇二
神田川橋	一〇八〇	トランスフォームドカテナリ鐵筋混凝土拱	有		表面巖石塗裝飾を施す

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
摩利志天橋	六三〇	同上	同上	同上	同上
忍川橋	六三〇	同上	同上	同上	同上
五條橋	六三〇	同上	同上	同上	同上
上野大通橋	一五三六	「ハイフル」線版桁型	無	一、六五〇九	同上

橋梁	徑間	型式	基礎	統	摘要
上白壁橋	四一五〇	「デ」線版キ桁型	無	二二〇一	同上
大通橋	一四八〇	同上	有	八七二六	同上
鍋橋	七五八九	同上	同上	三三九四	同上
東松下橋	七一九六	「ハイフル」線版キ桁型	無	七四六四	同上
平永橋	四七一二	「デ」線版キ桁型	同上	三二〇六	同上
柳橋	三三八三	同上	同上	一一〇八	同上
柳原通橋	六二二七	「ハイフル」線版キ桁型	同上	三三九八	同上
佐久間橋	六三〇〇	「デ」線版キ桁型	同上	三三九八	同上
明神坂橋	六三〇〇	同上	同上	三三九八	同上
煉塀橋	九四七五	「デ」線版キ桁型	有	八一〇九	同上
長者橋	六三〇〇	「デ」線版キ桁型	無	三三二一	同上
同朋橋	六三〇〇	同上	同上	三三二一	同上
切通橋	六三〇〇	同上	同上	三三二一	同上

壹碼のものを使用し最小半径拾五鎖に布設し道床は秋葉原驛及御徒町驛共中心より前後七鎖半宛匍進防止の目的を以て碎石を使用し他は多摩川産精選砂利を使用せり

### 第七 停車場

停車場は途中神田(既設)秋葉原、御徒町の三ヶ所にして東京、神田、上野驛共連絡設備に大改築を加へ秋葉原驛は本屋を平地に御徒町驛は本屋を橋梁下に設け旅客は何れも階段により乗降場に達す、又秋葉原驛には他日小手荷物増加の場合を考慮し乗降場床には昇降機設置用の孔を設けたり今停車場設備を數字を以て示せば左の如し

#### 秋葉原驛

橋下設備

驛長事務室

小手荷物扱所

六・〇<sup>坪</sup>  
六・〇

同 保管所

出札室

旅客溜り場

驛員詰所

驛物置

湯呑所

便所

乗降場設備

乗降場  
長 幅  
高

三〇・〇<sup>呎</sup>  
六〇〇〇

驛長事務室

乗客待合室

水呑所

四・五<sup>坪</sup>  
九・〇  
二ヶ所

御徒町驛

橋下設備

驛長事務室

六・〇<sup>坪</sup>

小手荷物扱所

九・三

同 保管所

一・二

出札室

六・三

旅客溜り場

四六・二

驛員休憩所

三・二

驛員詰所

三・七

便所

二・六

乗降場設備

二一・四<sup>呎</sup>

乗降場  
幅  
長  
高

五〇〇・〇  
三〇〇

驛長事務室

四・五<sup>坪</sup>

乗客待合室

九・〇

水呑所

二ヶ所

## 第八 電気設備

### 東京上野間電気工事概要

#### (イ) 架空電車線

東京上野間架空電車線は今回開始の電車運轉の複線のみならず將來の増設線路をも電気運轉の計畫にて全線に亘り強度大なる鐵塔を使用し平均柱間距離は百三十呎にして架線方式は「コムバウンドカタナリ」式なり電壓は直流一千二百「ヴオルト」にして使用電線の種類は次の如し

電車線      B S 四零番相當溝付硬引銅線

吊架線      B W G 六番七本燃鋼線

## 補助吊架線 B W G 拾壹番七本撚鋼線

饋電線は B S 拾番六拾壹本撚硬引銅線六條を架設し内四條を主線として上下線に二條宛を充て他の二條を副線とし上下の電車線に直接接續を爲せり歸線には B S 四零番相當百封度軌條用「レールボンド」を使用し「ダブルボンディング」を施せり

## (ロ) 變電所

上野變電所の位置は電車運轉負荷の關係上御徒町上野間に選定するを必要とせしか同地域は市内屈指の商業地域にして變電所用地として廣大なる土地を使用するは同地域の發展上面白からず且つ用地を得るに困難なりしかば高架線下に施設せり

本變電所は自働變電所にして機械の構造並電線の接續は複雑にして且つ變電所内には多數の橋脚林立し梁桁縱横に通し利用し得へき空間狹隘なるか爲設計及工事は困難なりしが全容量一萬二千「キロワット」中第一期工事として六千「キロワット」の設備を完成し交流一萬一千「ヴォルト」にて受電し直流一千二百「ヴォルト」にて電車線に饋電す而して將來輸送量の増加に應じ更に六千「キロワット」を増設し

得べく又隨時受電電壓は交流二萬二千「ヴォルト」に饋電電壓は直流一千五百「ヴォルト」に變更し得る設備なり

本變電所にて受電の交流電力を電車に供給すべき直流に變換する廻轉變流機三組は各二千「キロワット」にして朝夕の出盛時に電車運轉の増加に應じ任意の順序に自働的に運轉組數を増加して必要量の電力を饋電し電車運轉の減少する場合に廻轉變流機の運轉組數も亦自働的に減少す其の他電車、電車線等に於ける凡ての電氣的事故に對し直に自働的に對應作用を爲し不良部分のみを除外し恢復せば直に原態に復し又一の廻轉變流機に故障を發生したるときは直に他の機械を起動し夫れ等の動作の迅速にして確實なることは到底手働變電所の及ばざる處なり

斯く總ての動作を自働的に遂行するを以て本變電所には單に見張の爲めの少數従事員を要するのみなり

## (ハ) 地中送電線路

上野變電所に至る地中送電線は現在使用電壓一萬一千「ヴォルト」なるも將來之れ

を二萬二千「ヴォルト」と爲して送電容量を倍加せんが爲二萬二千「ヴォルト」用三十萬「サーキュラーミル」三心入被鉛鎧裝電纜を使用し道路面下三四尺の深さに土管又は鐵筋混凝土製「トラフ」中に埋設し田端變電所より五回線永樂町變電所より四回線を施設せり

田端變電所を經由しては鐵道省赤羽發電所の電力或は東京電燈會社猪苗代系統の電力を受くることを得べく永樂町變電所を經由しては同社甲州系統或は信州系統の電力を受くることを得べくかくして受電の杜絶することを防止するに努めたり

### 第九 主要材料

本工事に使用せる主要材料は砂利、砂、セメント、石材、煉瓦、鐵桁及鐵筋材にして東京神田柳原河岸間に於ては「セメント」鐵桁及鐵筋材のみを支給し他は請負者に於て調達せしめ神田川以北上野驛間に於ては砂利、砂、セメント及鐵桁を支給し他は請負者持とせり而して砂利、砂は生産價格と市價とに非常なる懸隔あるを見、之を直

營採集となすときは本工事の如き大量使用の工事にては莫大の利益となるを以て大正九年四月東京府下南多摩郡多摩川に於て砂利採集場を有する東京砂利鐵道會社の經營せる線路（中央線國分寺驛より分岐し南方多摩川に至る約四哩二分）竝に採掘權を譲り受け「スチームシヨベル」二臺、「ブームドラッグライン」一臺を用ひし河原には約六拾鑽の本線路を引込み切込砂利は「スチームシヨベル」を以て直接無蓋貨車に積込み下河原構内には一時間五立坪の篩分洗滌所を設け此に要する砂利の運送には二呎六吋の線路を布設し輕便機關車を用ふる等人力採集と相俟つて専ら本工事を初め東京附近改良工事用砂利、砂の採掘を營みつゝあり

今回開通の二線路に對する主要材料の產地又は製造所竝に主なる支給材料を擧ぐれば左の如し

種別	產地又は製造所	支給數量	摘要
煉瓦	本磨煉瓦		請負者持
	化粧煉瓦		
煉瓦	日本煉瓦製造會社		
	品川白煉瓦製造會社		

大阪窯業株式會社  
佐治製陶合資會社

セメント

日本セメント株式會社  
淺野セメント株式會社  
大分セメント株式會社  
小野田セメント株式會社  
土佐セメント株式會社  
豐國セメント株式會社

約  
八四、一〇〇樽

以上は神田川上野間工  
事用を示す  
東京神田川間は記録燒  
失不明

鐵  
桁

材料製造所

八幡製鐵所  
川崎造船所  
淺野製鋼所  
淺野造船製鐵部  
三菱製鋼所  
住友製鋼所  
ダビッド、コルベル、アン  
ド、ソンス、リミツテツド  
スチール、コムパニー、オプ、スコ  
ットランド  
シイル、 トン、スチール、アイ  
オン、アンド、コール、コムパニー、  
リミツテツド

約  
一、八二七噸

軌條  
切石

製造所  
常陸國 稻田  
製作  
橫川橋梁製作所  
川崎造船所  
汽車製造株式會社  
石川島造船所  
米國カーネギー、コムパニー  
同 テネシー、コムパニー

約  
七六〇噸

請負者持

砂利及砂

相模國 馬入川  
武藏國 荒川  
同 多摩川  
下野國 思川

栗石 七七五 立坪  
目潰 七三七 立坪  
切込 七八四 立坪  
精選 二五二九 立坪  
道路用 二二二七 立坪  
混泥土用 七〇〇一 立坪  
洗砂 三九八三 立坪  
並砂 一四二 立坪

神田川上野間工事用の  
分を示す  
東京神田川間は請負者  
持とす

鐵筋材	八幡製鐵所 日本鋼管株式會社 東京鋼管株式會社	長九呎	神田川上野間請負者持 東京神田川間は支給と す
		長三十一本	
		長十二呎	
		六八〇本	
		長十三呎六吋	
		三九八本	
		長十五呎	
		九四〇本	
		長十八呎	
		五一四本	
		長二十呎	
		八六七本	
		長二十五呎	
		七十四本	
		長二十七呎	
		二八九本	
		長三十呎	
		六三六本	
		長三十五呎	
		三四本	
鐵筋混凝土杭	別途製作		神田川上野間に使用の 概數とす 東京柳原河岸間の分に 對しては記録燒失の爲 不明

### 第十 建設費概算

工事は將來開通の線路も同時施行せしを以て今回開通の二線路分のみを判然と分離し難きも東京上野間二線建設費概算額は一千二百九十九萬百三十六圓にして其内譯左の如し

用地費	三、〇六四、〇〇〇 <sup>円</sup>
土工費	五三七、八五〇
橋梁費	五、二三六、九六三
溝橋費	二、九二〇
伏樋費	四〇三
軌道費	三七六、五二七
停車場費	一、〇七二、六八八
諸建物費	二五五、九二五
柵垣及境界杭費	二三、九八四

建築用具費	三六九、六三五
運送費	二九六、五三〇
建築用汽車費	一三二
電氣建物費	七二、六三六
電氣設備費	一、二二八、九五九
電車架空線路費	二一五、八八九
地中送電線路費	二三五、〇九五
合計	一、二、九九〇、一三六

又下河原に於ける砂利採集設備に要せし費額を掲記すれば左の如し

線路買收費	二六〇、〇〇〇 <sup>四</sup>
用地費	七〇、七五二
土工費	一三、四三二
橋梁費	二一、六三〇
溝橋費	五、五三四
合計	三六九、六三五

伏樋費	一、三二八	國分寺驛擴張の分を含む
軌道費	八七、八九六	同上
停車場費	一、九八二	同上
諸建物費	九九、四六六	
建築用具費	二〇三、三九九	
運送費	六、八五九	國分寺驛擴張の分を含む
合計	七七二、二七八	



大正十四年十月二十八日印刷  
大正十四年十一月一日發行

# 鐵道省

東京市日本橋區兜町二番地

印刷者 鈴木豐吉

東京市日本橋區兜町二番地

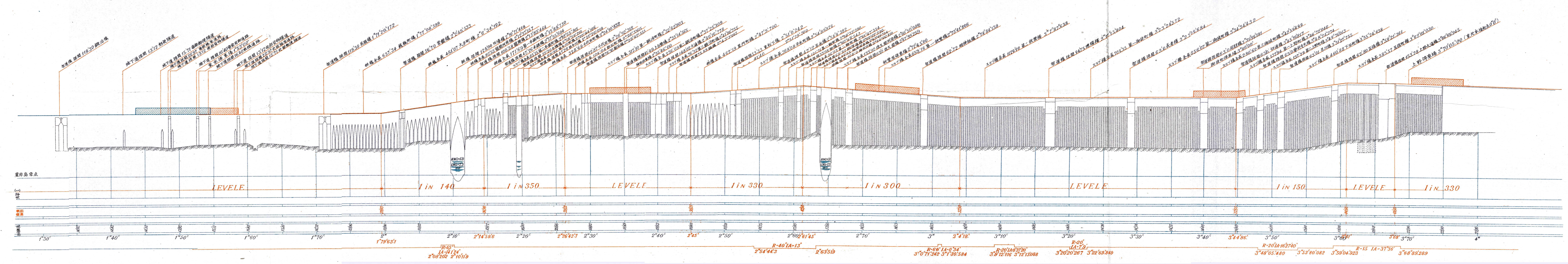
印刷所 東京印刷株式會社

# 市街線東京上野間線路平面圖 縮尺 $\frac{1}{5000}$



凡例  
 — 新設線路  
 — 既設線路

# 同上縱斷面圖 縮尺 縱 $\frac{1}{250}$ 橫 $\frac{1}{5000}$



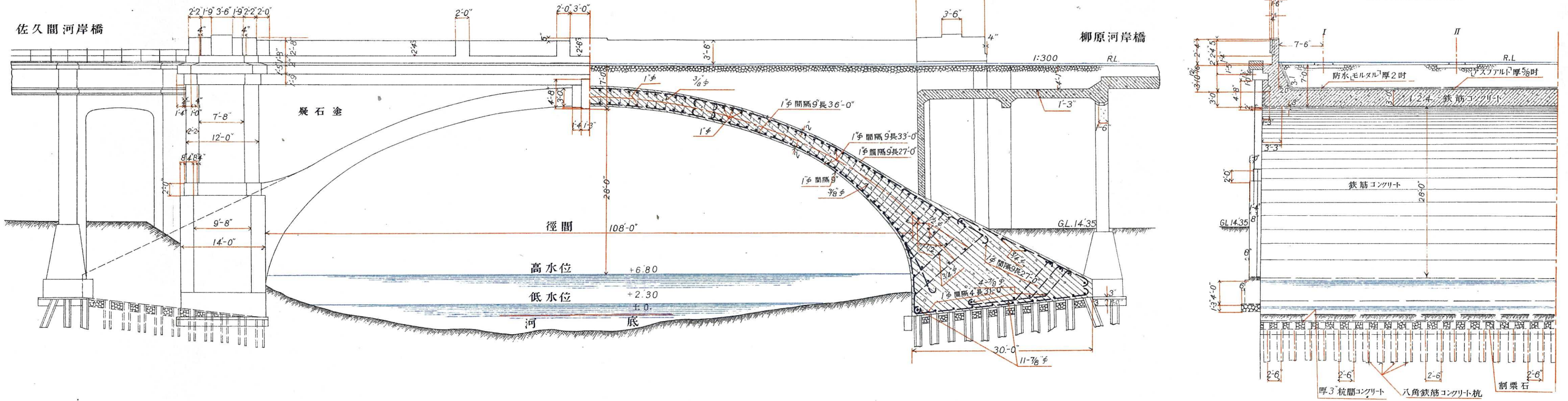
# 神田川橋(鐵筋混凝土拱)

縮尺二百分ノ一

側面圖

縱斷面圖

横斷面圖



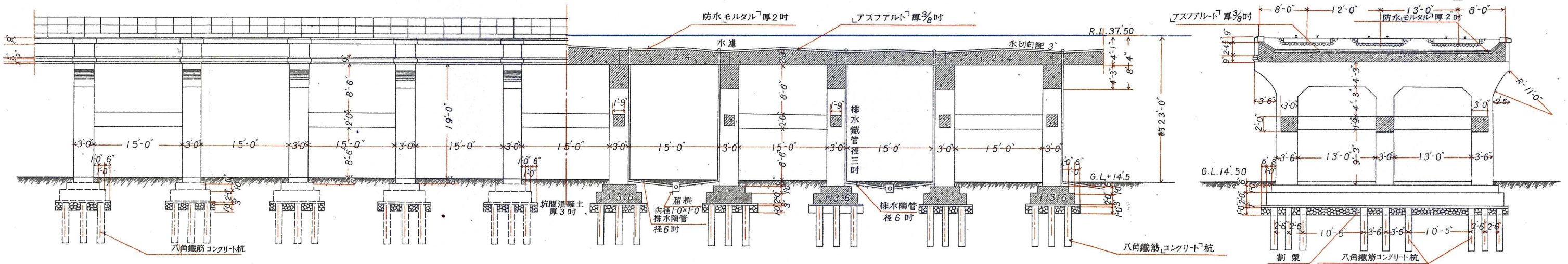
# 鐵筋混凝土「スラブ」橋

縮尺二百分ノ一

側面圖

縦断面圖

横断面圖



備考：一 佐久間河岸、第一、第二御徒町橋ハ  
本型式ニ依リ築造セリ

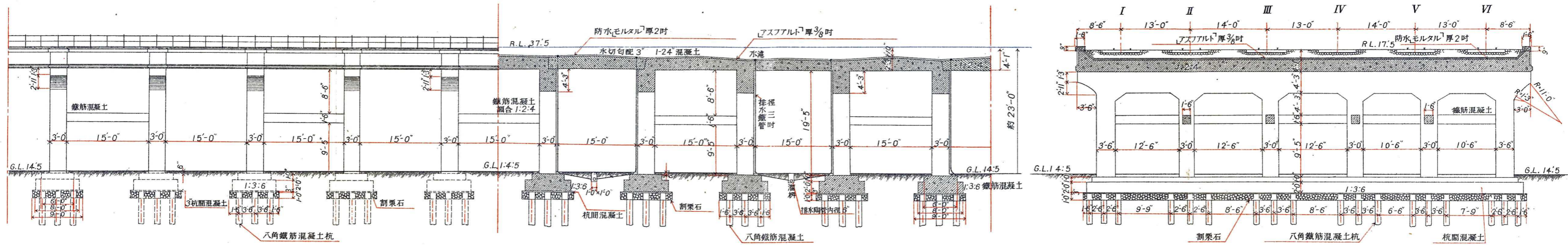
# 三徑間連続「スラブ」橋

縮尺二百分之一

側面圖

縦断面圖

横断面圖



備考：一 第一秋葉橋、五條町橋間ニ於テ第一第二御徒町橋及五條町橋ノ一部ヲ除キ他ハ本型式ニ依リ築造ス但シ線路間隔ハ一定セス

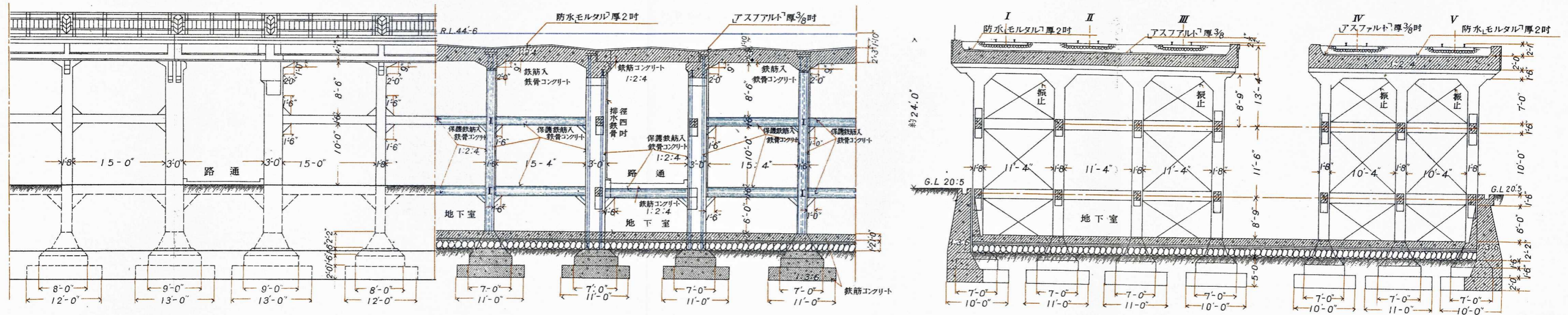
# 五條町鐵骨混凝土橋 (保護鐵筋入)

縮尺二百分ノ一

側面圖

縱斷面圖

橫斷面圖



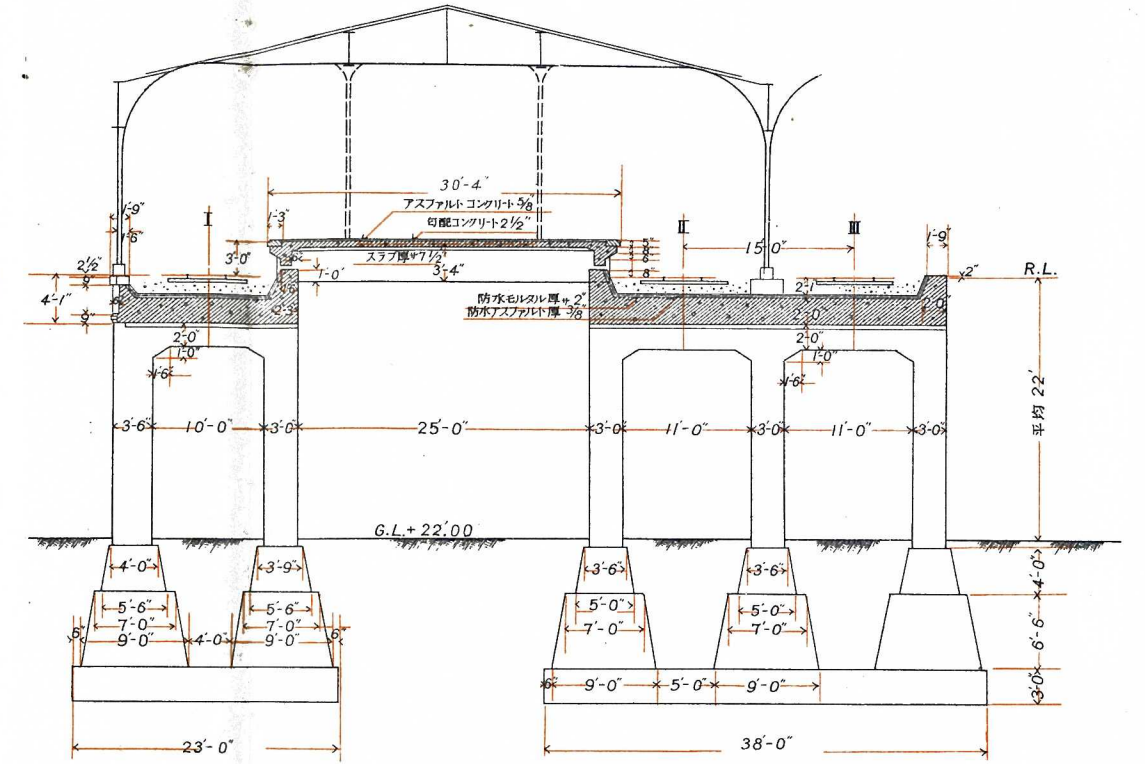
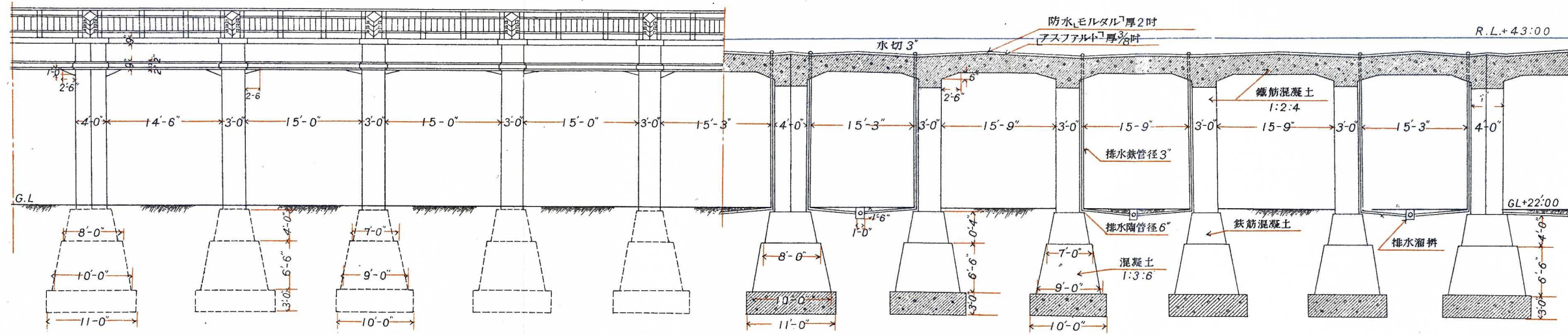
# 五徑間連続「スラブ」橋

縮尺二百分ノ一

横断面圖

側面圖

縦断面圖



備考:一 上野山下町橋ハ本型式ニ依リ築造セリ